

出典：産業技術総合研究所 報告書『平成 25 年度「活断層の補完調査」』

*2：中央構造線断層帯の金剛山地東縁区間、五条谷区間、根来区間は、各区間に分割して評価された。

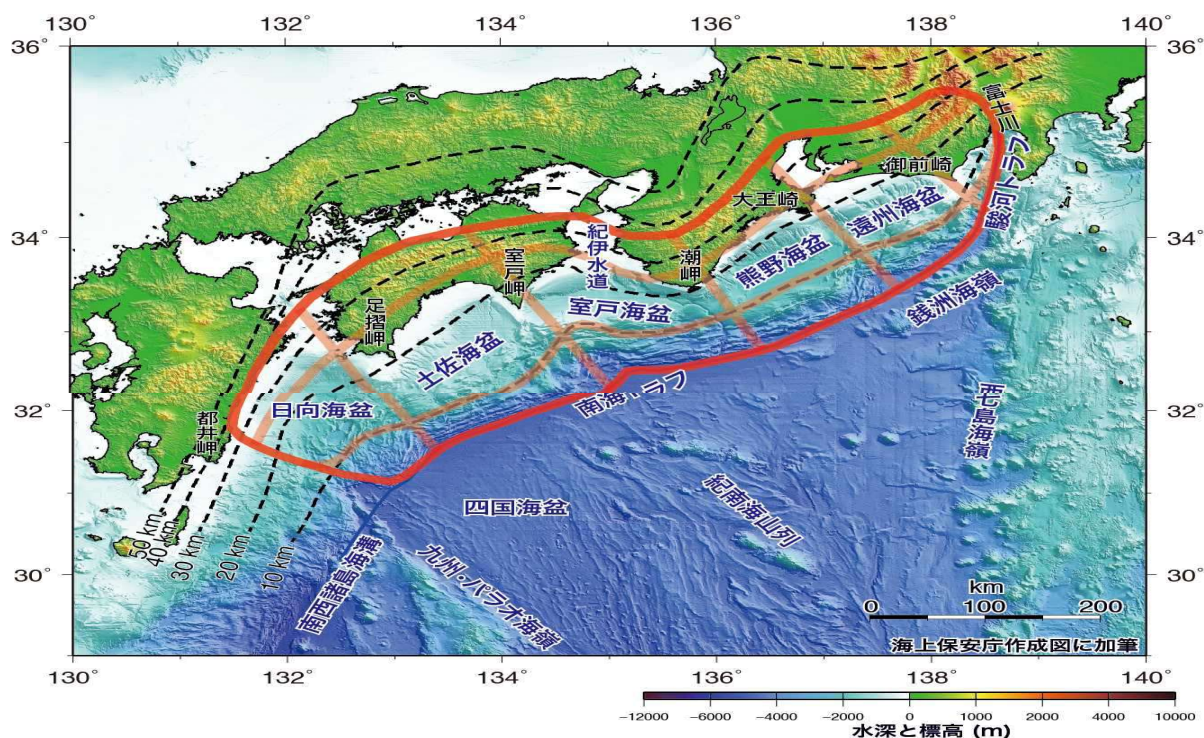
- ・金剛山地東縁区間：想定マグニチュード 6.8 程度
- ・五条谷区間：想定マグニチュード 7.3 程度
- ・根来区間：想定マグニチュード 7.2 程度

出典：地震調査研究推進本部地震調査委員会 活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧（令和 5 年 1 月 1 日での算定）

2) 海溝型地震

地震調査委員会はこれまでに、海域に発生するプレート間地震（海溝型地震）について、千島海溝、三陸沖から房総沖にかけての日本海溝、相模トラフ、南海トラフ、日向灘及び南西諸島海溝周辺、日本海東縁部を対象に長期評価を行い、公表してきた。

南海トラフにおいて大地震が発生すると、九州から関東の広範囲にわたり、大きな被害が懸念される。そのため、これまでのような南海・東南海領域という区分をせず、南海トラフ全体を 1 つの領域として考え、地震活動の長期的評価を暫定的に改訂した。



出典：地震調査研究推進本部地震調査委員会

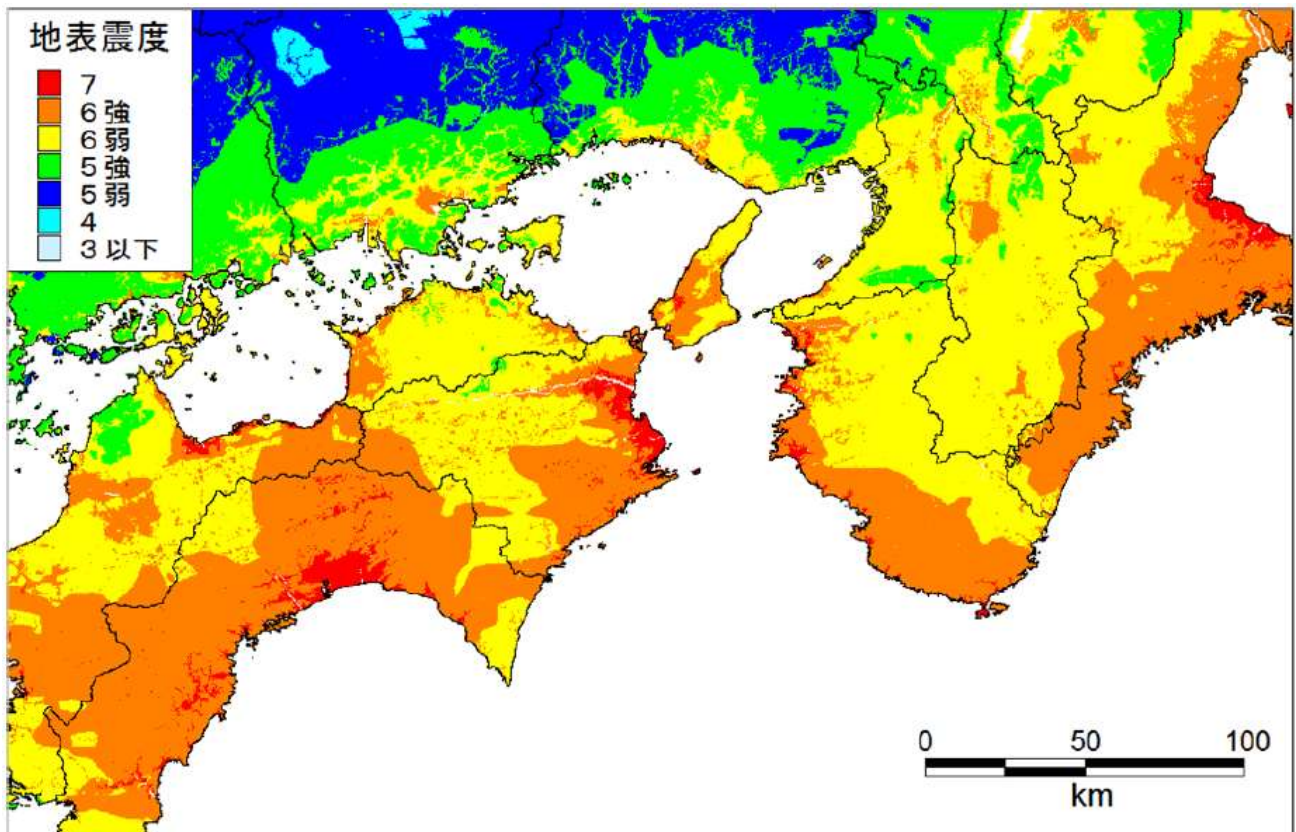
「南海トラフの地震活動の長期評価について（第二版）平成 25 年 5 月」

< 参考 1 >

「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）（平成 24 年 8 月、中央防災会議）」における被害想定と奈良県の想定との比較は以下のとおりである。

区 分	中央防災会議（H24）	第 2 次奈良県地震被害想定調査（H16）	
地震名称	南海トラフの巨大地震	東南海・南海地震 同時発生 （南海トラフ地震）	奈良盆地東縁断層帯
県内最大震度	6 強	6 弱 （大半は 5 弱、5 強）	7
住家全壊棟数	約 7,500～47,000 棟	約 1,300 棟	約 119,600 棟
死者数 ※	約 1,700 人	4 人	約 5,200 人

※死者数の内訳（建物倒壊、急傾斜地崩壊、火災による。）



震度分布図（陸側ケース）

出典：南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）追加資料（平成 24 年 8 月、内閣府）